

# こんにちは！ 地域おこし協力隊 です

※地域おこし協力隊とは、人口減少等の課題を抱える地方の自治体が、都市部の人材を地域社会の新たな担い手として受け入れ、地域力の維持・強化を図ることを目的として設立された制度です。

臼杵市では、現在4名の協力隊が移住し、地域活動に関わっています。今年度は一般隊員1名と有機農業隊員2名を採用し、計7名となります。

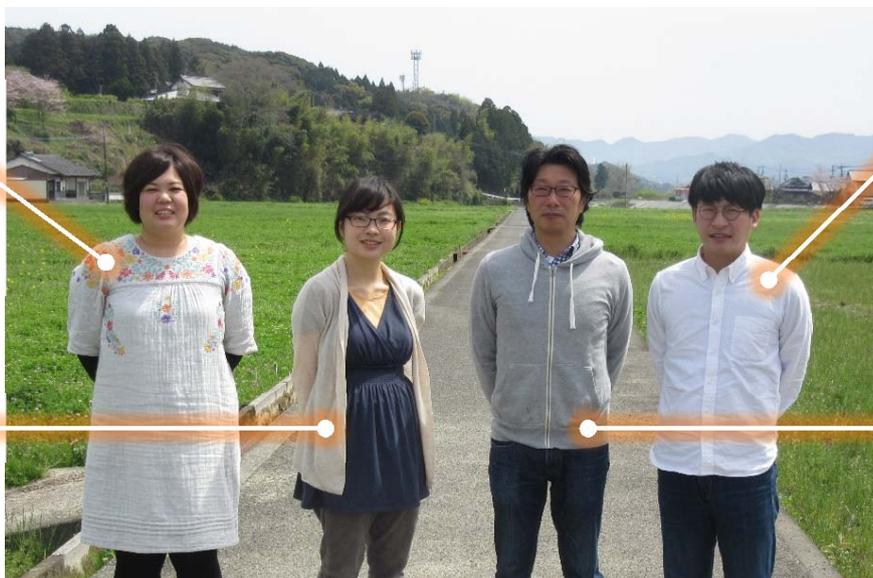
臼杵市が平成26年度より採用している**地域おこし協力隊（以下、協力隊）**をご存じでしょうか。「名前は聞いたことあるけど何してるの?」「どんな人たちなの?」と思っている方もまだまだいらっしゃるのではないかと思います。そこで今月より、協力隊の活動や企画イベント、彼らからのメッセージなどを定期的にお知らせしていきたいと思います。

第1回は、平成26・27年度に採用された4名の紹介です。ぜひ顔と名前を覚えてくださいね。

ふくやまかおる

## 福山 薫

- ・採用2年目
- ・29歳
- ・千葉県出身
- ・住まいは下ノ江



よしざわ たろう

## 吉澤 太郎

- ・採用3年目
- ・29歳
- ・東京都出身
- ・住まいは末広

やまおか ななこ

## 山岡 奈々子

- ・採用2年目
- ・26歳
- ・大阪府出身
- ・住まいは新地

いしばし こうじ

## 石橋 浩二

- ・採用3年目
- ・46歳
- ・神奈川県出身
- ・住まいは港町

採用  
担当

吉澤さんは採用3年目、今年が協力隊の任期最後の年です。APU在学時代に大分ことが大好きになったそう。大学卒業後は一度東京へ戻ったものの、大分に移住したいという強い想いと臼杵市の協力隊募集のタイミングが運よく重なり、協力隊として臼杵で暮らすことになりました。

「コミュニティハウスA・KA・RI」に住み、上北小の子どもたちや地域住民をはじめ、市内外から多くの方が出入りする賑やかな空間を生み出しています。協力隊のオフィスとしても活用しているため、庁内で協力隊を見かけることはあまりないかもしれません。

メインの活動は、移住定住促進事業。実際に都市圏から大分へ移住した経験を活かし、東京での移住フェア出展や移住モニターツアーの際に親身になって対応しています。

また、昨年度は上北小と南野津小で、APUの留学生と小学生・地域住民との交流事業を実施しました。普段あまり接する機会のない留学生との交流は、子どもたちや地域の方にとって視野を広げたり異文化を学ぶ貴重な経験となっています。

IUターン者や臼杵市内外の様々な職種の方が不定期で交流する「ボクらのうすき時間」やピッチイベント「How's LIFE? in Usuki」の開催なども意欲的に行っています。

柔らかい物腰で誰とでも仲良くなれそうな雰囲気を持ち主。



## 石橋



石橋さんも今年が協力隊の最終年となります。システムエンジニアとして長年勤めた会社を退職し、奥さんと娘さんを連れて臼杵に来られたことから、並々ならぬ決意がわかります。ITとマーケティングに長け、フットワークも軽く、協力隊の中では頼れるお兄さんの存在。

活動は多岐に渡り、初年度はびんころ朝市への関わり、上北小学校でのライトペインティング、臼杵古里映画学校、地域の情報発信や商品開発サポートなど。昨年度は更に活動の幅を広げ、これまで臼杵になかったITを用いたイベント（ITワークショップ、スマホで宝探しin黒島、うすきブラ♡ブラ）の開催や、サーラ・デ・うすきのリノベーション計画に（株）まちづくり臼杵のスタッフとして関わるなど、臼杵に新たな風を送りこんでくれています。地域資源を掘り起こし、どう活用や発信をしていくか、斬新な発想で、かつ、とても熱い想いを抱いて取り組んでいます。

Facebookでの細やかな情報発信や、色々な場所への視察や取材の一方で、無農薬米作りやサーラの芝生手入れなどの地道な作業も毎日淡々と続ける石橋さん。一体いつ休んでいるのか心配になるくらい、いつも全力で仕事に打ち込んでいます。

超多忙な毎日と芝生手入れの結果、着任当初から10kg以上も痩せたとか。

## 福山



福山さんは昨年採用され、任期2年目に入りました。お母さんが大分出身のため、小さい頃から遊びに来ており、いつか大分で暮らしたいと思っていたそう。栄養士の免許を持ち、社員食堂や保育園での献立作成や調理担当の経験から、臼杵の素材を使った料理の開発に意欲的です。

昨年はびんころ朝市の改善検討や、色々な地区でのイベント手伝い、米粉パンの試作、無農薬米作りなど、多岐に渡る活動を行ううち、徐々に下ノ江地区での活動が多くなっていました。下ノ江での廃油石鹸の改良や、料理教室や高齢者サロンへの参加、下ノ江駅でのイベントでのスタッフ、下ノ江のお母さんたちの手芸作品を「下ノ江商店」として売り出すなどの活躍が積み重なり、ついには下ノ江に引っ越すことに。地元の方に「薫ちゃん」と親しまれ、頼りにされています。

最近では、今月オープンした吉四六ランドのおへまハウスのメニュー開発に携わっています。これまでの経験を活かし、子どもたちが喜ぶカレーライスを試行錯誤して作り上げました（まだ召し上がってない方はぜひおへまハウスへ！）。長年、食に携わってきたためか、福山さんが撮る写真は美味しさが伝わってきます（おいしい臼杵」コンテスト入賞）。

虫が苦手という、臼杵暮らしでの試練を抱えています。

## 山岡



山岡さんも今年が2年目。着任まではずっと大阪の実家に住んでおり、初めての県外&初めての一人暮らしとなった臼杵での生活。初めは福山さんと野津でルームシェアをしていましたが、徐々にお互い活動が忙しくなり、それぞれライフスタイルに合った場所（福山さんは下ノ江、山岡さんは新地）へ引っ越しました。

前職はユニバーサルスタジオジャパンでアトラクションの運営や接客をしていたという山岡さん。その経験は、協力隊の活動報告会などでも発揮され、元気良く「はい、みなさん、こんにちわ〜！」で始まるプレゼンを聞いた方も多と思います。

昨年はとにかく色々な地区に顔を出し、たくさんのイベントに携わりました。中でも特に大きな仕事となったのは、美術科目の専門教諭がない小規模校（豊洋中・南中）での学習サポーターと、スマホで宝探しin黒島でのデザイナー業務。芸大卒の山岡さんが工夫を凝らし、他の中学校で体験できないような面白い美術の授業（特にインパクトがあったのは、3年生の最後の授業の縄文土器の制作&校庭での野焼き体験）を行い、宝探しでは、ポスター、チラシ、スタンプ、モンスター、地図、看板など全てのデザインを担当し、イベントの雰囲気さをさらに高め、より非日常な空間を演出しました。

車の運転が苦手でしたが徐々に慣れてきた今日この頃。